牡丹　ボタニカルアート

「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」と美人の代名詞に例えられるボタンは、ボタン科に属する低木で4月頃美しい大輪の花を開きます。中国では蕾をお茶にしますが、本来は根の皮を牡丹皮と称し漢方薬に配合します。血液が淀んで老廃物がたまって病気になる状態を瘀血（おけつ）と言いますが、このような時に投与される処方、例えば桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん；ホットフラッシュ等に有効）などの漢方薬に配合されます。

本画はEdward Stepにより1850年頃描かれたものです。学名が*Paeonia moutan*となっていますが、*Paeonia* はギリシャ神話の医神Paeonから、*moutan*は中国語の牡丹(moutan)から付けられています。